

自分も相手も気持ちよい コミュニケーションを学ぶ機会をつくる

インクルーシブ教育研究者・博士（障害科学）野口晃菜



今回のでこぼこポン!のテーマは「相手の気持ちを知る発明品」です。

一生懸命ポンの絵を描いたほこすけに対して、でこりんは「へたっぴ」と声をかけます。その後もほこすけの絵を描いているでこりんは、ほこすけの見た目に対して「髪がぐちゃぐちゃ」「体がちいさい」などと言いながら描きます。ほこすけは、でこりんの言葉に傷つき、怒ります。でこりんは、なぜほこすけが怒っているのかがわからないようです。

でこりんのように、相手がどんなことを言われたら嫌な気持ちになるのか、わかりづらい子どもがいます。本人は悪意なく、思ったことをそのままストレートに言っているのですが、その内容や言い方は相手にとっては傷つく言葉である場合があります。相手が言われたことに対して怒ったり泣いたりすると、本人は「本当のことを言っただけなのに…」と戸惑ってしまうことがあります。また、相手が傷つき、嫌な気持ちになっていることに気が付かずに、いつのまにか人が離れていってしまい、孤立してしまうこともあります。

ポンの提案で、でこりんは人が言われたら嫌な気持ちになる言葉をわかりやすく教えてくれる「アカンデー賞」を発明します。アカンデー賞は、以下の三つの言葉は相手が嫌な気持ちになることを教えてくれます。

- ① 見た目のこと
- ② 相手の好きなものをバカにすること
- ③ 相手が頑張っていることをバカにすること

②の相手好きなものをバカにしない、に対し、でこりんが「電車ごっこしたくなくても、我慢してやらないといけないの？」と聞きますが、ポンはそれに対して、「自分の意見を伝えることは大切」と伝えます。でこりんのように、「相手が嫌がることを言うてはいけないこと」イコール「自分の意見を言うてはいけない」、と捉える子もいますが、自分の意見を言うてはいけないわけではありません。「私は別の遊びがしたいんだけど、どうかな？」などと**相手の意見も自分の意見も尊重する伝え方を学ぶ機会をつくる**ことが大切です。

3の相手が頑張っていることをバカにする、についても、自分の感想や意見をまったく言うてはいけないわけではありません。**相手の頑張り**を尊重する伝え方を学ぶ機会をつくることも大切です、番組にあるように、頑張っていることについて、応援をしていることを伝えていくのも一つです。

相手と良好な関係を維持するためのコミュニケーションには、暗黙の了解が多く、学ぶ機会がないことが多いです。また、0 か 100 で考えがちな子どもは、「相手が嫌がるならもう話さない」と、失敗体験が続くと他者とのコミュニケーションそのものをあきらめてしまう子どももいます。言われると嫌な気持ちになりやすい言葉を知る機会、そして代わりにどのような伝え方が良いかを学ぶ機会をつくることで、自分も相手も気持ちの良いコミュニケーションの成功体験を積めるようにしましょう。